

1 1 確率

| | | | | | |
|----|--|---|--|----|--|
| 学年 | | 組 | | 氏名 | |
|----|--|---|--|----|--|

1 2つのさいころを同時に投げるとき、次の確率を求めなさい。ただし、さいころは、どの目が出ることも同様に確からしいものとします。

(1) 出た目の和が6になる確率 2個のさいころを同時に投げるとき、
起こりうる結果は全部で36通りある。

出た目の和が6になるのは、(1, 5), (2, 4), (3, 3), (4, 2), (5, 1)の5通り。

$$\frac{5}{36}$$

$$\frac{5}{36}$$

(2) 出た目の積が12になる確率

出た目の積が12になるのは、(2, 6), (3, 4), (4, 3), (6, 2)の4通り。

$$\frac{4}{36} = \frac{1}{9}$$

$$\frac{1}{9}$$

(3) 出た目の和が5の倍数になる確率

出た目の和が5の倍数になるのは、(1, 4), (2, 3), (3, 2), (4, 1), (4, 6), (5, 5), (6, 4)の7通り。

$$\frac{7}{36}$$

$$\frac{7}{36}$$

2 赤玉4個、白玉3個の入った袋から、続けて2個取り出すとき、次の確率を求めなさい。

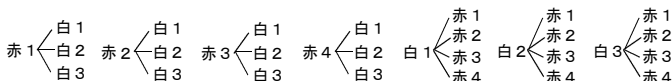
(1) 2つとも赤玉である確率 4個の赤玉を、赤1, 赤2, 赤3, 赤4, 3個の白玉を、白1, 白2, 白3と区別して樹形図をつくって考えると、起こりうる結果は7×6=42通り。



$$\frac{12}{42} = \frac{2}{7}$$

$$\frac{2}{7}$$

(2) 取り出した玉の色が異なる確率

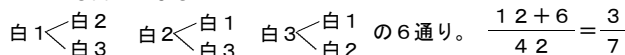


$$\frac{24}{42} = \frac{4}{7}$$

$$\frac{4}{7}$$

(3) 2つとも同じ色である確率

2つとも赤玉になるのは (1) より12通り。
2つとも白玉になるのは



$$\frac{12+6}{42} = \frac{3}{7}$$

$$\frac{3}{7}$$

3 10本のうち3本が当たりになっているくじをA, Bの2人が、A, Bの順に1本ずつ引くとき、次の確率を求めなさい。A, Bの順にひく引き方は全部で10×9=90通り。い。

(1) Aだけが当たる確率

Aがあたり、Bが外れをひけばよいから
3×7=21通り

$$\frac{21}{90} = \frac{7}{30}$$

$$\frac{7}{30}$$

(2) Bだけが当たる確率

Aがはずれ、Bがあたりをひけばよいから
7×3=21通り

$$\frac{21}{90} = \frac{7}{30}$$

$$\frac{7}{30}$$